

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立横川小学校
校長名	森 村 聡 彦

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・国語、社会、算数は、実施学年全てが、全ての観点で全国平均値を上回った。 ・特に 2, 3 学年は実施した 2 教科の 8 観点全てで全国平均を 10 Pt 以上上回り、算数の思考・判断・表現はそれぞれ 20 Pt も上回った。 ・6 年生は経年比較すると、社会科と算数の 3 観点で全国平均を上回るようになった。 ・理科は学習塾では習わない教科であり、授業の成果が表れる。3 学年の 6 観点のうち、5 観点で全国平均を上回った。	・6 年生の全般的な学力は上がってきている。引き続き進学に向けてキャリア教育を充実させ、自ら学ぶ目的意識や意欲をもたせたい。 ・国語は各学年の経年変化をみても、着実に学力が上がってきている。全ての学習の基礎となる読解力の向上を目指し、引き続き指導に注力していく。 ・授業規律は各学年とも安定しているので、異文化理解を進め、外国語の知識・技能習得に興味関心をもたせたい。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「学級の規範意識」の標準スコアは、全ての学年で全国平均を上回っている。 ・「学習習慣」は 2、3、5 年生で定着しており、着実に学力向上に結び付いている。 ・6 年生は「生活習慣・学習意欲・学級の絆」が向上しており、最上級生としての意識に変化がみられる。	・2～5 年生は「友達のささえ」を求める傾向にあり、少人数やグループでの活動の機会を増やして好ましい人間関係を構築したい。 ・4 年生を除く各学年で「先生のささえ」を求める数値結果となっている。これまでも適切に関わってきているが、より様々な立場の教職員が児童の支援にあたるよう指導側に意識させたい。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・全学年で授業規律や学校生活の規範意識が安定して育てられており、特に高学年児童の落ち着いた秩序ある姿が下学年児童に良い影響を与えている。 ・D,E 層の児童が、教員の粘り強い指導によって、課題に最後まで真剣に取り組む姿勢が身に付いてきた。	・引き続き「一生懸命は、かっこいい」という大切な価値観を全校児童に身に付けさせ、学習や学校行事などの活動に対して最後まで真面目に取り組む態度を養いたい。 ・地元公立中学校への進学率はこの4年間、76%前後で安定している。その先にある高等学校や専門学校、大学への進学など、自ら学び職業選択に生かす学力の基礎や目的意識や意欲を育てたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 自ら学ぶ力～読書および家庭学習・自主学習の一層の強化充実

○読書週間を定着させ、成果が表れてきた読解力のさらなる向上に努める。

- ・共通理解のもと、定着してきた朝読書を週2回どの学級でも必ず実施する。全校が静寂の中で本の世界に集中する時間を創出し、学習への集中力を育成して今後も継続して読解力の育成に努める。

○低・中学年のうちに家庭学習の習慣化と、保護者との連携をすすめる。

- ・家庭での読書の習慣化を進め、課題の提出などに引き続き保護者の協力を依頼する。

(2) 国語・算数の基礎学力の維持と学習に取り組む態度の向上

○年間2回の算数コンテストと漢字コンテストの実施を継続し、基礎学力を定着させ、応用学習への動機付けを行う。

- ・6年…小テストを行い、間違えた問題を類似問題で復習。満点の児童は、別課題を自主学習する。
- ・1～5年…復習問題を学習する。(ミライシード、ふりかえりシート、まるぐランド)
- ・本校独自の「放課後まなび塾」、「放課後チャレンジ教室」を行い、算数の基礎学力の定着を図る。
- ・D,E 層の児童に対して、持続できる無理のない範囲で放課後の短時間で補習をする。

(3) すでに整っている授業規律のアドバンテージを生かして、メタ認知を育む

○見通しをもって学習する態度や習慣を育成する。

- ・自分に合った課題を選択して自主学習できるようにする。

- ・ 単元別の小テストを行う → 間違えたところを復習する → 類似問題を解いて確認する

○できるようになったことの確認をする。

- ・ ふりかえりシートで自己の努力や成長の確認をする。
- ・ 分からないところの確認と、克服するまで学習する。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・ 各学年の全観点で、全国平均を 5 ポイント上回るよう、課題を克服し、学力の定着と充実を図る。
- ・ 「一生懸命は、カッコいい」という大切な価値観と、最後まで諦めない姿勢を全ての児童に身に付けさせる。